

第4回
徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会 資料

平成30年1月11日
都市整備部まちづくり推進課

■徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会のスケジュール	P 2
---------------------------	-----

■今回の検討事項	P 4
----------	-----

1. 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針	P 6
------------------------	-----

2. 土地利用計画(ゾーニング)	P15
------------------	-----

3. にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の方向	P20
--------------------------	-----

4. 公共交通の利用促進策	P28
---------------	-----

徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会のスケジュール

徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会のスケジュール

第1回 (7.10開催)

- ・ 駅周辺まちづくりにおける3つの整備方針（案）の共有
 - ①より一層のにぎわいの創出
 - ②都市の魅力づくり
 - ③公共交通の利用促進

第2回 (10.06開催)

- ・ 整備方針（案）に対応したまちづくりの方向性の議論（方向性を議論するためのデータ提示）
（議論を深度化するための必要データの洗い出し）
- ・ 検討会の各回のテーマ、スケジュール

第3回 (11.22開催)

- ・ 駅周辺のまちづくりのコンセプト
- ・ 駅前広場の空間のあり方
- ・ にぎわいづくりのための取り組み

第4回 (1.11開催)

- ・ まちづくりの将来像及び方針
- ・ 土地利用計画（ゾーニング）
- ・ にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の方向
- ・ 公共交通の利用促進策

第5回 (2.05予定)

- ・ まちづくり計画（素案）の調整

今回の検討事項

検討内容

- ・ 駅周辺まちづくりの将来像及び方針等

検討の論点

都市機能集積
による都市の
にぎわい創出

魅力ある
公共空間の創出

駅周辺への
アクセス性・
回遊性の高い
モビリティ

1. 駅周辺のまちづくりのコンセプトを踏まえた
駅周辺のまちづくりの将来像及び方針について
2. 土地利用計画（ゾーニング）について

3. にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の
方向について

4. 公共交通の利用促進策について

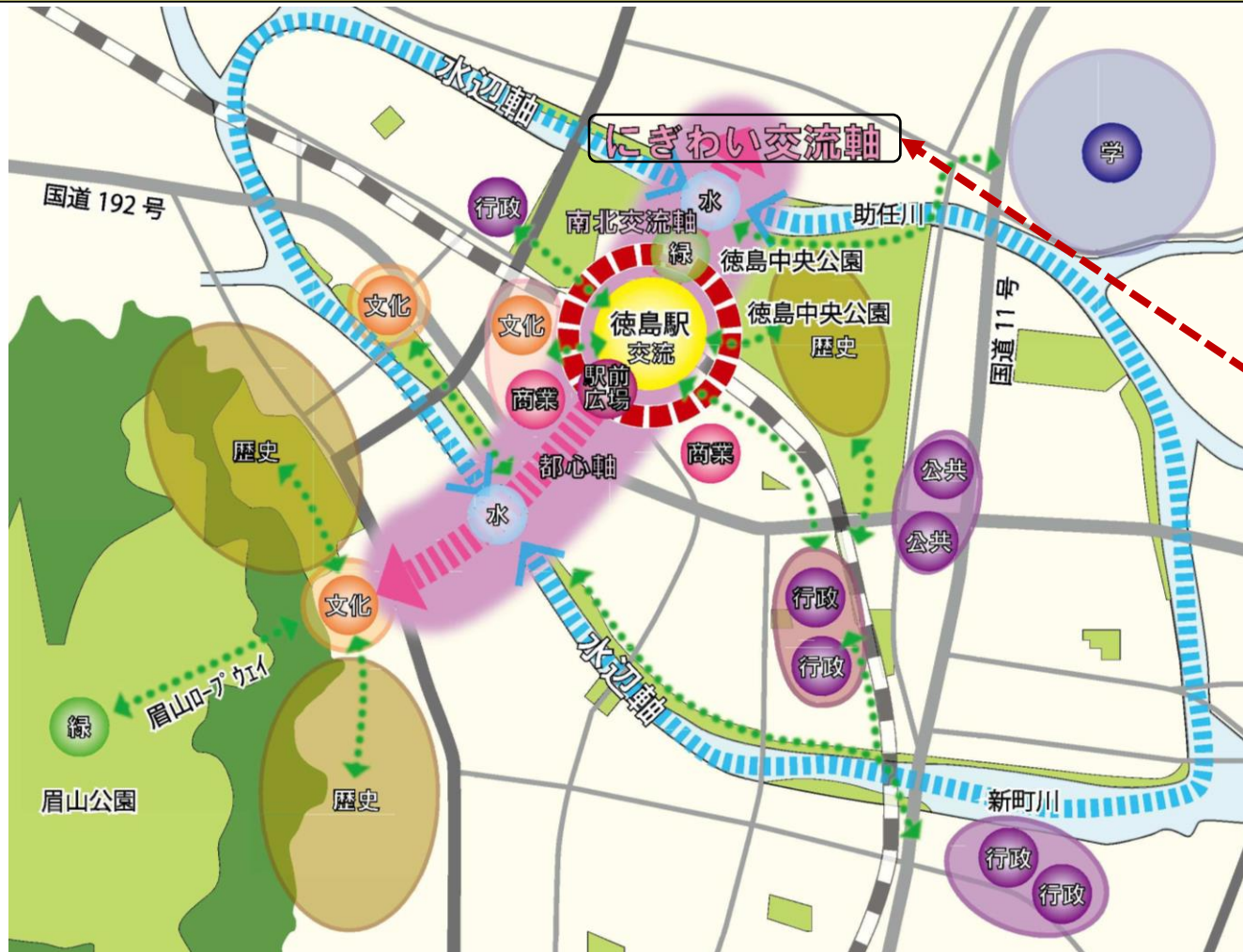
1. 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針

1. 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針

駅周辺のまちづくりのコンセプトにおける「にぎわい交流軸」

徳島駅周辺を、人の交流を促進し、にぎわいを創出・向上させる場とするためには、人々が集まる「場所」や「空間」、「仕掛けづくり」が必要不可欠！

「にぎわい交流軸」を形成し、新たなにぎわいと、その面的な広がりを創出する



にぎわい交流軸 (中央公園～徳島駅前広場 ～新町川～眉山)

“にぎわい交流軸”の中核を成す徳島駅前広場等の公共空間を再編することにより、にぎわい空間や快適かつ安全な動線并确保し、駅を中心としたにぎわいの拡大を目指す。

1. 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針

都市機能

公共空間

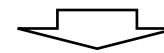
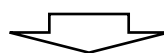
モビリティ

コンセプト

鉄道高架事業により生み出される空間等を活用した、都市機能の更新や集積等により、持続的ににぎわいを創出

都心軸・南北交流軸・駅前広場が一体となった「にぎわい交流軸」を形成し、新たなにぎわいとその面的な広がりを創出

公共交通・歩行者優先の空間に転換し、だれもが安全に、安心して滞在・回遊できる空間を創出



“笑顔(ひと)”と“潤い(水・みどり)”がつながり、にぎわいあふれる水都交流拠点

- ◆ 様々な世代が集い交流できる駅前広場を中心とした「公共空間」と、安全で快適な「歩行者・自転車ネットワーク」や、交通結節点としての利便性が向上した「交通広場」が一体的に機能し、市民をはじめ、駅利用者や来街者をまちに誘い、滞留・回遊を生み、まち全体のにぎわいが広がっている
- ◆ 駅周辺に整備された魅力的な都市機能や公共空間に、人が集まり、にぎわいが生まれ、そのにぎわいが、さらに新たな都市機能等呼び込む好循環が生まれている



- 四国東部の中核都市にふさわしい都市機能を集積し、にぎわいを創出する
- 地域資源を身近に感じることができる都市景観と、人々が歩いて楽しみ、滞留や交流が生まれる居心地よい公共空間を創出する
- 安全・快適に移動・回遊できる人と環境にやさしい交通体系や空間を整備し、人々の動きやにぎわいをまち全体に拡大させる
- 多様な運営主体によるまちづくりのハード・ソフト両面の取組を強化・支援することで、まちのにぎわいと活気をもたらす

まちづくりの将来像(案)

まちづくりの方針(案)

1. 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針

将来像を実現するためのまちづくりの方針(案)及び取組(案)

【まちづくりの方針(案)①】

四国東部の中核都市にふさわしい都市機能を集積し、にぎわいを創出する

取組(案)

◇ 鉄道高架事業により生み出される土地や空間などを活用したにぎわいづくり

⇒ 車両基地跡の土地や高架下空間の有効活用（民間の集客施設の誘致、駅周辺に来訪することでしか体験できないコンテンツの提供、モノづくりをテーマとした商業施設、健康増進サービス施設、余暇を楽しむ施設など）

⇒ 昼と夜で異なる顔やにぎわいづくりの創出

- ・ 昼間のにぎわい（公共空間等での多彩なイベント、まち歩き、芸術文化活動、買い物など）
- ・ 夜間のにぎわい（飲食、LED、学び、芸術文化活動、阿波おどりなど）

◇ 文化施設整備等による芸術文化機能の集積・展開

⇒ 新ホール整備や駅前広場等の公共空間等を活用した、多彩な芸術文化活動の開催など

◇ 地域資源を活用した取組や文化活動等の展開

⇒ 駅周辺に広がる水や緑、歴史などの資源を生かした取組のほか、公共空間を活用した多様なイベントや文化活動等の促進

◇ 観光情報の集積・発信等

⇒ 観光客の利便性向上のためのインフォメーション機能の強化、地域資源等を生かしたコンテンツの強化、滞在型観光の推進

1. 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針

将来像を実現するためのまちづくりの方針(案)及び取組(案)

取組(案)

◇ 都市機能の誘導など民間の投資を呼び込むための基盤整備

⇒ 駅前広場の再整備（にぎわい・交流空間の形成、溜まり場・憩いの場づくり）や歩行空間の整備

⇒ 車両基地跡地への民間の都市機能誘導

◇ 事業者が主体的に取り組むまちづくりに対する支援や連携等による事業化の促進

⇒ 民間事業者による老朽化した建築物・街区の更新や都市機能集積への支援、空き店舗や空き事務所等の利活用への支援

⇒ 都市再生推進法人やNPO法人など、まちづくりの担い手によるソフト施策（オープンカフェ、まちなかマルシェ等）の実施

◇ 都市機能の強化・更新・誘導による都市拠点形成

⇒ 行政・業務・商業・文化・観光・歴史・スポーツ等、既存機能の強化・更新・新規機能の誘導により、人々の活動の中心を駅周辺に誘導

◇ 都心居住の促進

⇒ 駅周辺の都市機能集積や利便性を生かした、街中にふさわしい民間事業者による住環境の整備

1. 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針

将来像を実現するためのまちづくりの方針(案)及び取組(案)

【まちづくりの方針(案)②】

地域資源を身近に感じることができる都市景観と、人々が歩いて楽しみ、滞留や交流が生まれる居心地よい公共空間を創出する

取組(案)

◇ 人が集い、にぎわいに触れられる公共空間の創出

- ⇒ にぎわい交流軸の形成
- ⇒ にぎわい交流軸における歩行者や自転車の快適かつ安全・安心な動線の確保、それによる快適な回遊性の向上
- ⇒ 道路空間の再編等による滞留スペースの確保、オープンカフェや徳島の食材にこだわった屋台、手作り市等の展開
- ⇒ 駅前広場（多目的なオープンスペース）の確保・再整備、駅前広場等で多彩なイベントや芸術文化活動等を行うことができる機能の整備

◇ 本市の顔（シンボル）となる玄関口としての駅や駅周辺のまちなみ景観の形成

- ⇒ 駅前におけるシンボルアートやモニュメントの整備、駅周辺の屋上や壁面の緑化推進等による景観づくり
- ⇒ LEDを用いたイルミネーションやライトアップの実施

◇ 新町川や助任川の水の資源を感じられる空間の形成

- ⇒ 川の駅ネットワーク構想に掲げる、川の駅・停留所の整備による水を感じられる空間の拡充
- ⇒ NPO法人等と連携したアクティビティの充実などのソフト施策の展開

◇ 徳島中央公園や眉山の緑、徳島城の歴史などを感じられる空間の形成

- ⇒ 緑地空間への民間活力等の導入による魅力の向上
- ⇒ 眉山や歴史に関する情報発信など、にぎわい交流軸の回遊を促す仕掛けの実施

1. 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針

将来像を実現するためのまちづくりの方針(案)及び取組(案)

【まちづくりの方針(案)③】

安全・快適に移動・回遊できる人と環境にやさしい交通体系や空間を整備し、人々の動きやにぎわいをまち全体に拡大させる

取組(案)

- ◇ **安全に移動や待ち合わせ等ができる駅前広場や歩行者空間の整備・機能向上**
 - ⇒ 車両動線と歩行者動線を分離し、わかりやすい動線で利便性の高い交通結節空間づくり
 - ⇒ わかりやすく利便性の高い交通施設の配置、来訪者にもわかりやすい利用案内・情報提供による円滑な乗り換え、乗り継ぎ機能の強化（景観性や統一感を有した案内サインの設置、情報機能の充実）
 - ⇒ 歩行者が雨に濡れずに移動できる動線の確保（屋根シェルターの設置等）
 - ⇒ 待ち合わせスペースをはじめとした交流・滞留機能の充実
- ◇ **鉄道高架事業による鉄道横断動線の整備**
 - ⇒ 鉄道の高架化による円滑な歩行者動線の整備
- ◇ **歩行者や公共交通が優先された道路空間の再編**
 - ⇒ 駅前から阿波おどり会館までの歩行者優先のネットワーク整備（新町橋通りの道路空間再編の検討）
 - ⇒ 通過交通の抑制
- ◇ **利便性の高い駐車場や駐輪場の整備等**
 - ⇒ 高架下を活用した駐車場や駐輪場の整備
 - ⇒ 拠点的駐車場や公共駐車場が連携する共通駐車券システムの構築
- ◇ **公共交通の利用促進**
 - ⇒ 公共交通の利用に向けた動機づけの検討、企業や商業施設との連携の検討
- ◇ **回遊を促すための多様なモビリティの導入**
 - ⇒ コミュニティサイクルなど新しいモビリティの導入の検討

1. 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針

将来像を実現するためのまちづくりの方針(案)及び取組(案)

【まちづくりの方針(案)④】

**多様な運営主体によるまちづくりのハード・ソフト両面の取組を強化・支援することで、まちに
にぎわいと活気をもたらす**

取組(案)

◇ エリアマネジメントに携わるまちづくりの担い手の育成

⇒ 新たなまちづくりの担い手として、多様な人材を巻き込むとともに、都市再生推進法人制度や道路協力団体制度を活用する。多様なまちづくり団体が主体となり、魅力やにぎわいを創出する仕掛けや仕組みづくりを実施

◇ まちづくりの担い手によるソフト施策の推進

⇒ 都市再生推進法人等が、駅前広場や道路等の公共空間を有効活用し、人が来る目的づくりを行い、まちのにぎわい・交流の創出や来街者の利便促進に寄与するための様々な取組を実施
(オープンカフェやまちなかマルシェの開催、広告マネジメント、自転車共同利用事業、まちなかの美化清掃活動、植栽活動等)

◇ にぎわいを創出するための徳島固有の地域資源の活用

⇒ 駅周辺の空き店舗等をリノベーションし、既存の観光資源に加え、本市固有の様々な地域資源を活用した、観光客(特にインバウンド)を引き付ける本市ならではの取組を実施

1. 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針

基盤整備図



- 鉄道高架事業と一体的に実施する施策
- 車両基地跡の土地利用
 - 高架下空間を活用した都市機能の整備
- 鉄道横断動線の整備
- 高架下駐車場・駐輪場の整備

- 全域で実施する施策
- 民間の都市機能集積の支援等
 - イベント等の開催
 - 都心居住の促進
- 人が集いにぎわう公共空間の創出
 - まちなみ景観の形成
 - 地域資源を感じられる空間の形成
- 広場や歩行者空間の整備
 - 歩行者や公共交通が優先された道路空間の再編
 - 公共交通の利用促進
 - 回遊性を高める新モビリティの検討

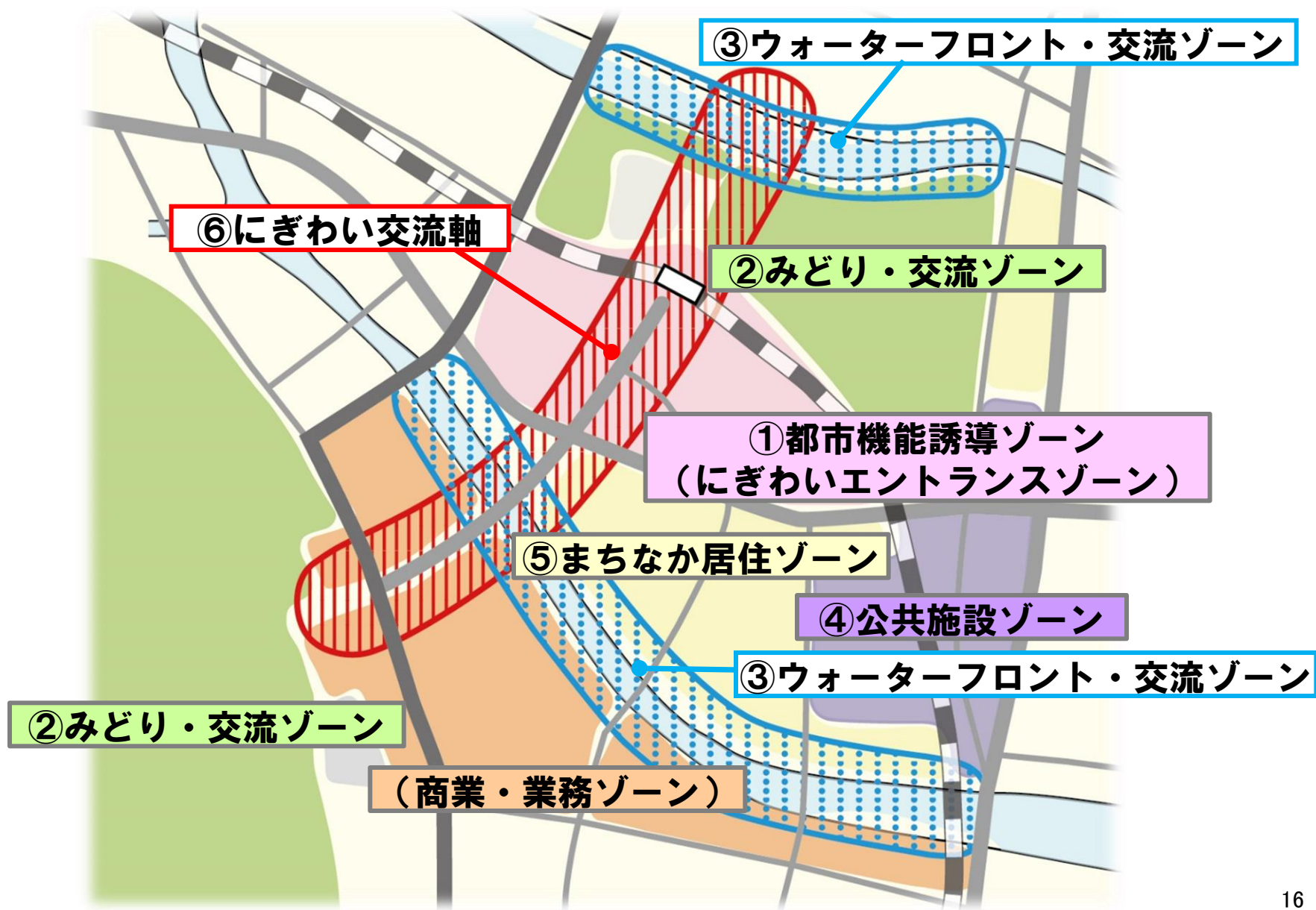
➤ にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編
(駅前広場、歩行者優先の空間整備等)

- ◀▶ にぎわい交流軸
- ↔ 鉄道横断動線
- ⋯➤ 歩行者・自転車ネットワーク

2. 土地利用計画(ゾーニング)

2. 土地利用計画(ゾーニング)

駅周辺の土地利用のゾーニング



2. 土地利用計画(ゾーニング)

各ゾーンの現状と都市機能の誘導方針

① 都市機能誘導ゾーン（にぎわいエントランスゾーン）

<現状>

- 拠点的な商業機能等が立地している。
- 徳島駅に隣接して車両基地が設置されており、駅直近のポテンシャルを活かせていない



<都市機能誘導の方針>

- ✓ 鉄道高架事業に合わせて、車両基地跡の土地利用を進めるとともに、新しいホームや駅前広場の再整備、都市機能の高度化に一体的に取り組む
- ✓ またこれらの更新した機能と、新ホールや周辺の既存施設等とが連携する波及効果により、新たなにぎわいを創出する
- ✓ 本市の玄関口にふさわしい魅力ある空間を創出し、にぎわいをけん引するとともに、周辺ゾーンへにぎわいを面的に広げる

② みどり・交流ゾーン

<現状>

- 徳島中央公園や眉山の徳島ならではの緑の地域資源が存在し、市民の憩いの場となっている
- 中央公園内には、体育館などのスポーツ施設が立地しており、多くの人たちに利用されている
- アクセス性の悪さなどから、十分に来訪者を受け入れられていない



<都市機能誘導の方針>

- ✓ 都市機能誘導ゾーン(にぎわいエントランスゾーン)とのつながりを強化し、これらの地域資源のアクセス性と魅力をより一層向上させる
- ✓ 眉山の夜景や眉山麓における歴史的・文化的な界隈の魅力を生かし・つなぐとともに、これらの情報をより一層発信していく

2. 土地利用計画(ゾーニング)

各ゾーンの現状と都市機能の誘導方針

③ウォータフロント・交流ゾーン

<現状>

- 徳島駅周辺は、新町川や助任川に囲まれ、水の資源を身近に感じることができる
- 護岸の親水化や遊歩道の整備などにより河川を活かした、水を身近に感じることができるまちづくりを進めている
- NPO法人による周遊船が運行されるなど、集客に向けたソフト施策が進められている

<都市機能誘導の方針>

- ✓ 親水空間や歩行空間の整備を進めるとともに、NPO法人や道路協力団体といった民間団体等と積極的に協力、連携して、多様なソフト施策などによる魅力向上に取り組み、より一層のにぎわいを創出する

④公共施設ゾーン

<現状>

- 徳島市役所をはじめ、各種行政施設や関連施設が集積している
- 鉄道による分断のため、各種施設の相互利用がしにくい状況にある
- 一部施設は老朽化が進んでおり、特に文化センターは閉鎖された状況となっている

<都市機能誘導の方針>

- ✓ 文化センター跡地の利用計画についての検討を進める
- ✓ 鉄道高架事業に合わせて、高架下を利用した自転車や歩行者の施設間の移動や、アクセス性を向上させるための動線を整備する

2. 土地利用計画(ゾーニング)

各ゾーンの現状と都市機能の誘導方針

⑤ まちなか居住ゾーン

<現状>

- マンション等が複数立地しており、人口が増加している箇所も存在している
- 診療所をはじめとした医療施設は相当数立地している。
- 商業施設については、生鮮食料品から日用品までを扱うスーパーマーケット等は立地しておらず、生活利便性の向上が望まれる
- 老朽化した建物や木造建物が多く、市街地の更新の必要性が高い街区が存在する



<都市機能誘導の方針>

- ✓ 駅周辺の利便性や既存の都市機能の集積を生かし、敷地の共同利用等による高齢者やファミリー層が暮らしやすい住宅など、良好な居住環境の誘導を推進することにより、都心居住を促進し、定住人口の増加を図る
- ✓ 日常生活に必要な商業機能等の生活利便施設を誘導する

⑥ にぎわい交流軸

<現状>

- 各ゾーンを連携する鍵となる軸であるが、沿道などにおいては、にぎわいは少なく活気が感じられない



<都市機能誘導の方針>

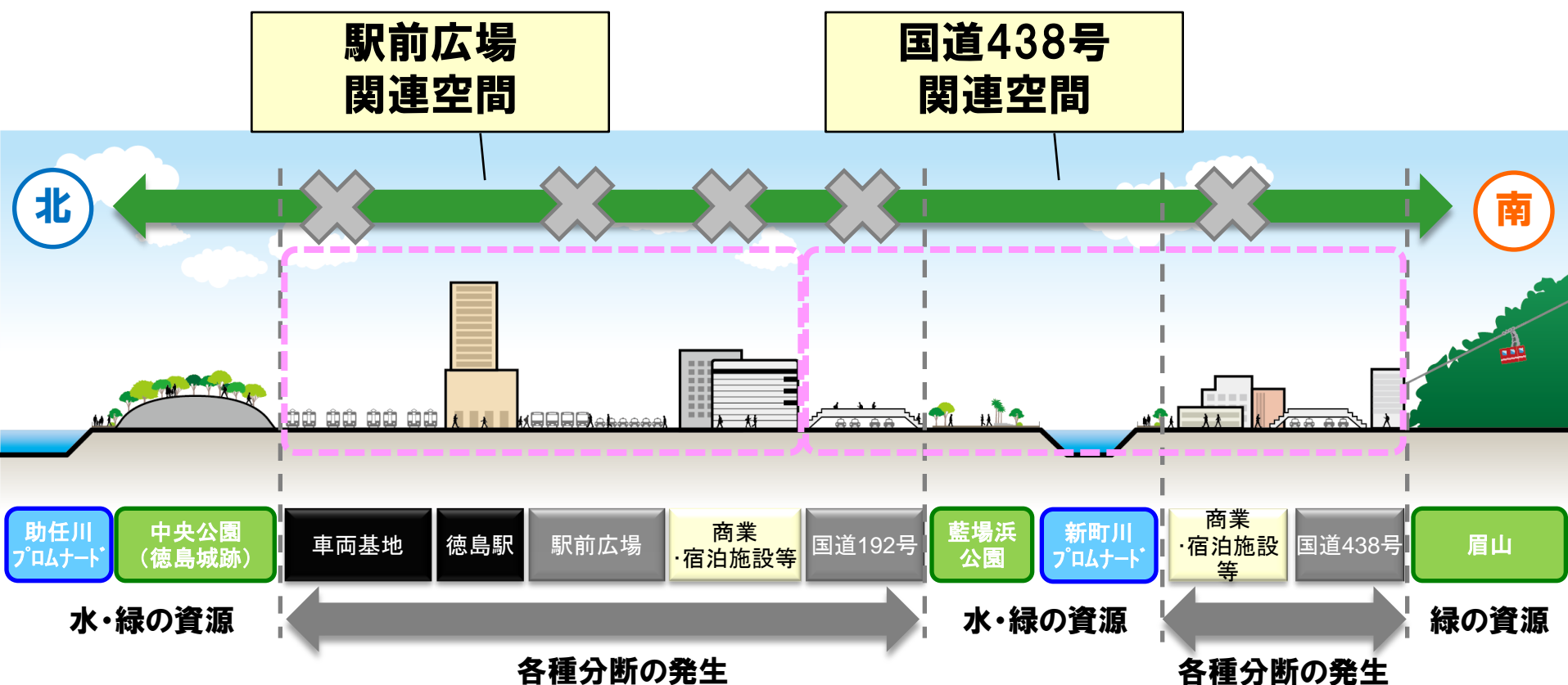
- ✓ 駅前広場は、幅広い活用に対応した電源・給排水等の整備により、各種イベント開催等を促進し、にぎわいの核として機能させる
- ✓ 歩行者や自転車を優先する道路空間の整備により回遊性を向上させ、各ゾーンをつなぐことでにぎわいをまち全体へ広げる。
- ✓ 景観性に優れた空間をデザインし、植樹等による緑化を行い、快適な利用に配慮したベンチなどの施設を配置する

3. にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の方向

3. にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の方向

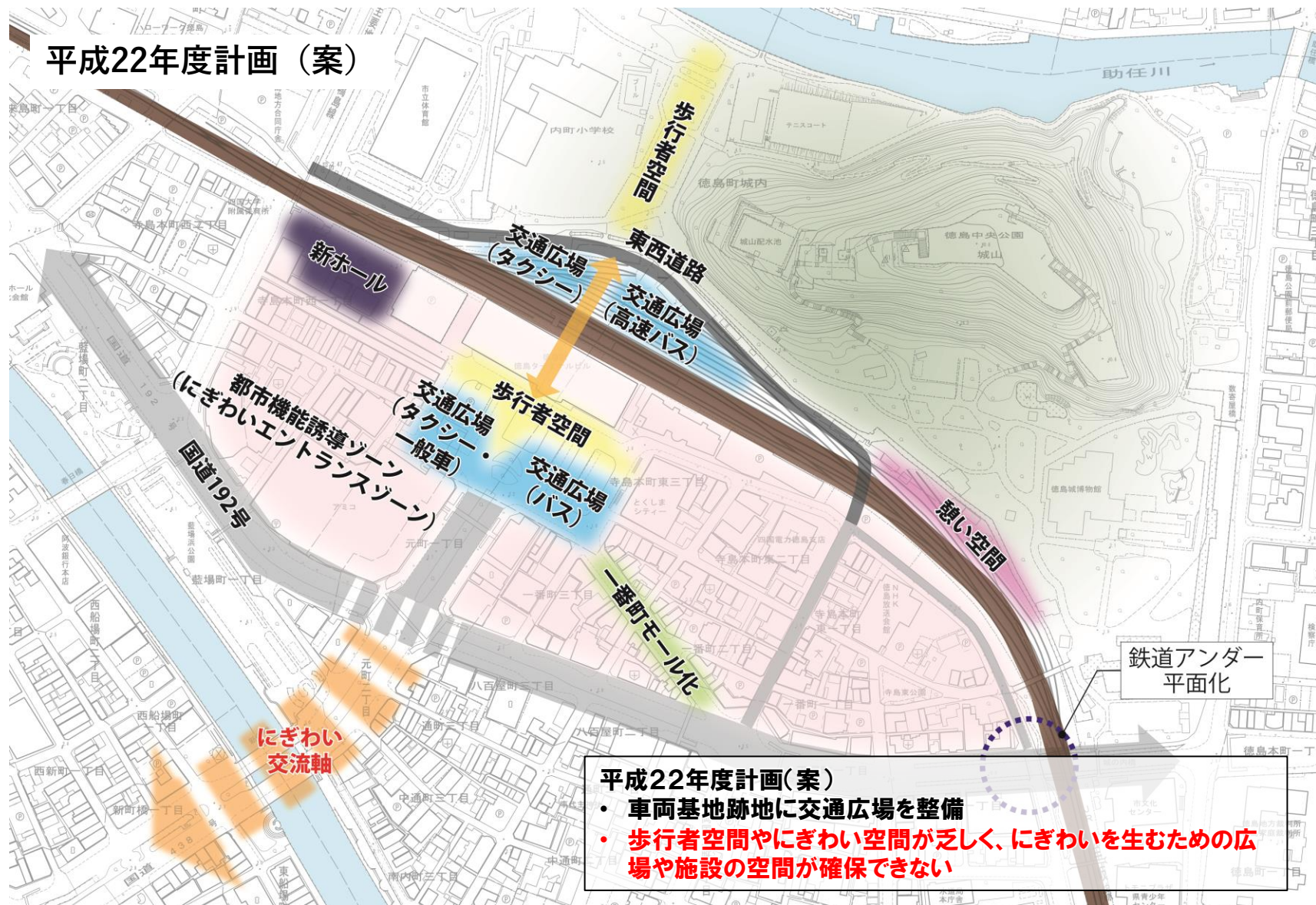
駅前広場の位置づけ

- にぎわい交流軸の形成という観点から、その中心をなす駅前広場空間のあり方を検討（交流軸の形成にあたり、その中心に位置し、多くの人を交流軸へ誘う駅前広場をどのような空間として再整備すべきか）



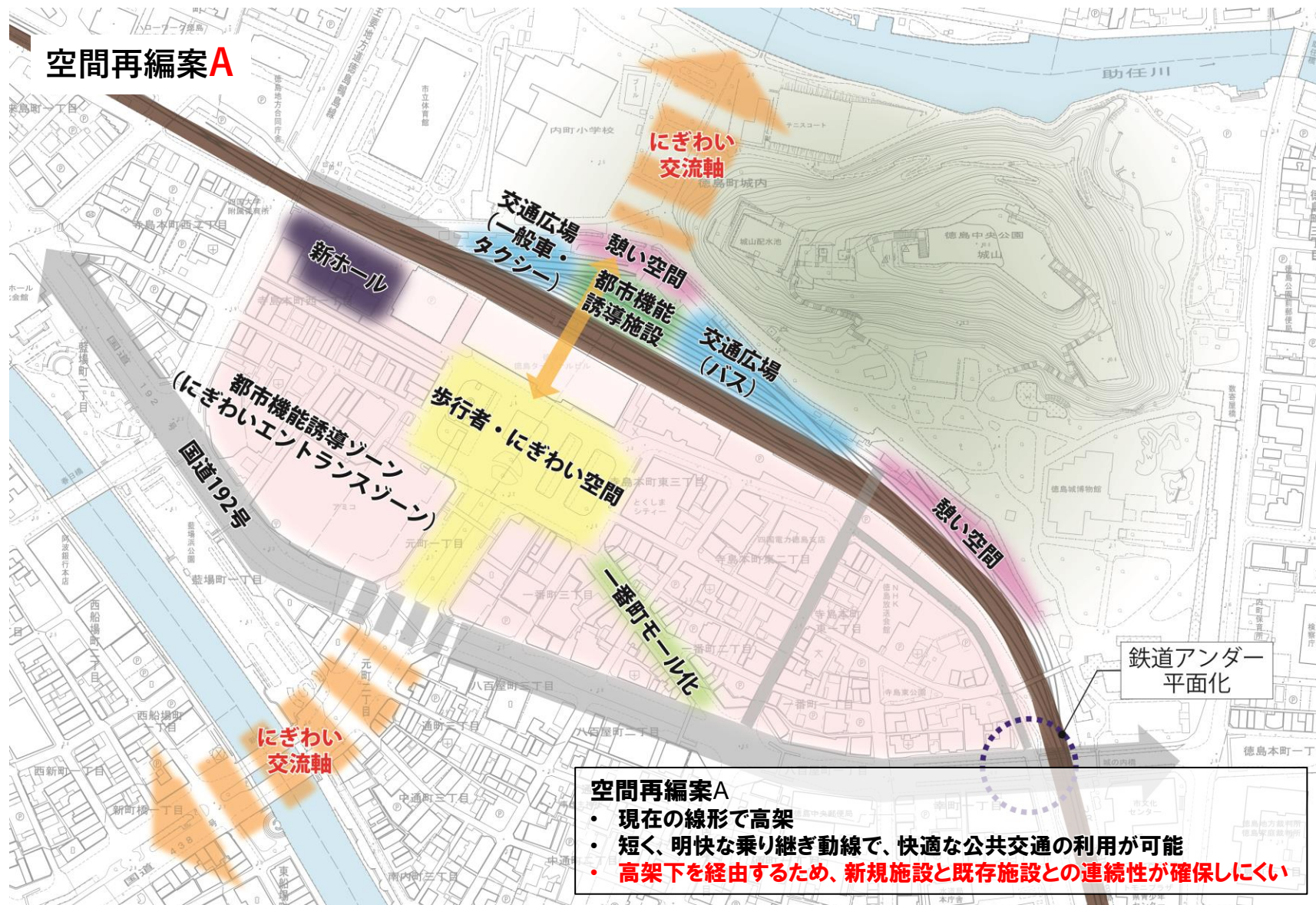
3. にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の方向

駅前広場関連空間の整備の方向



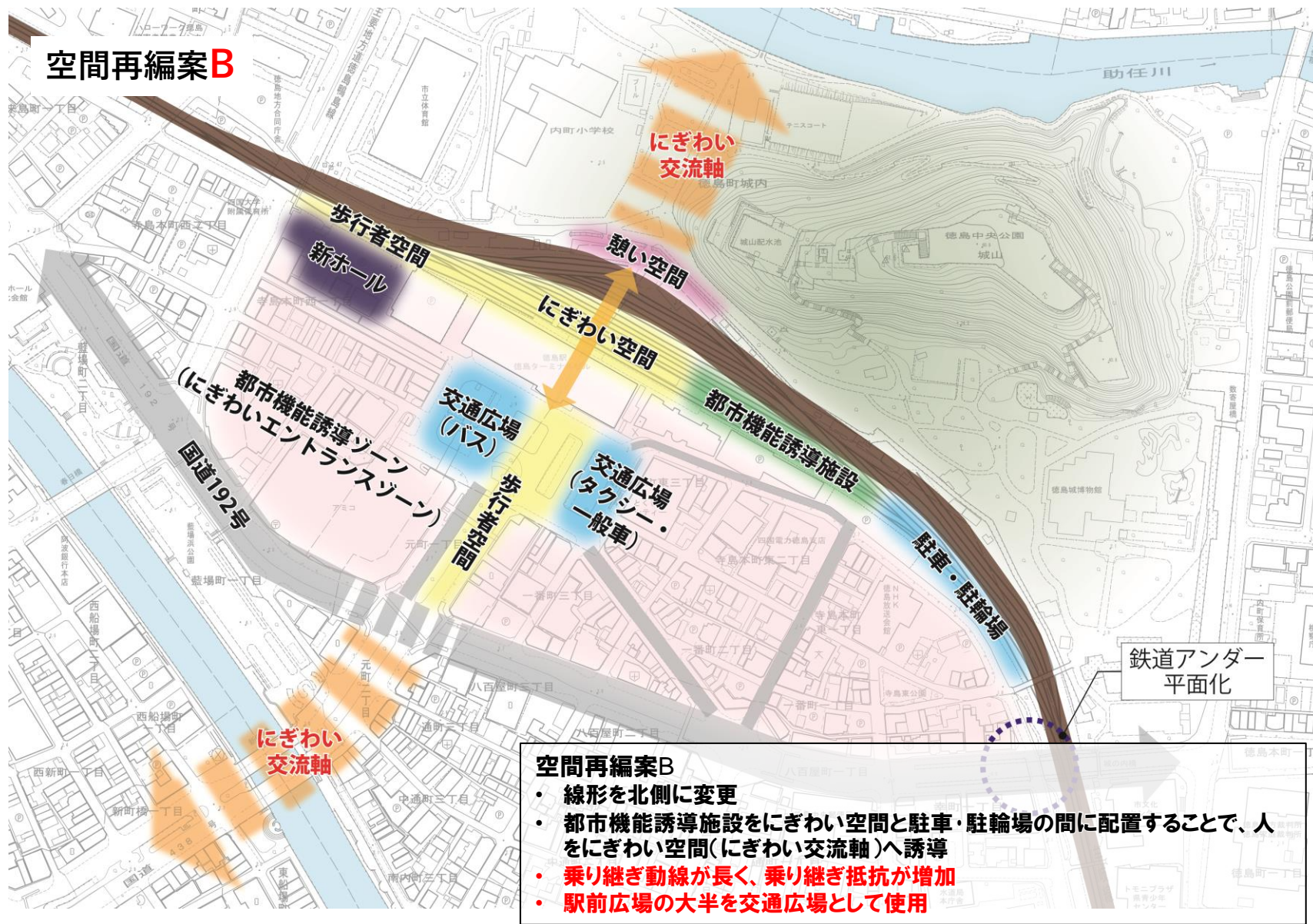
3. にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の方向

駅前広場関連空間の整備の方向



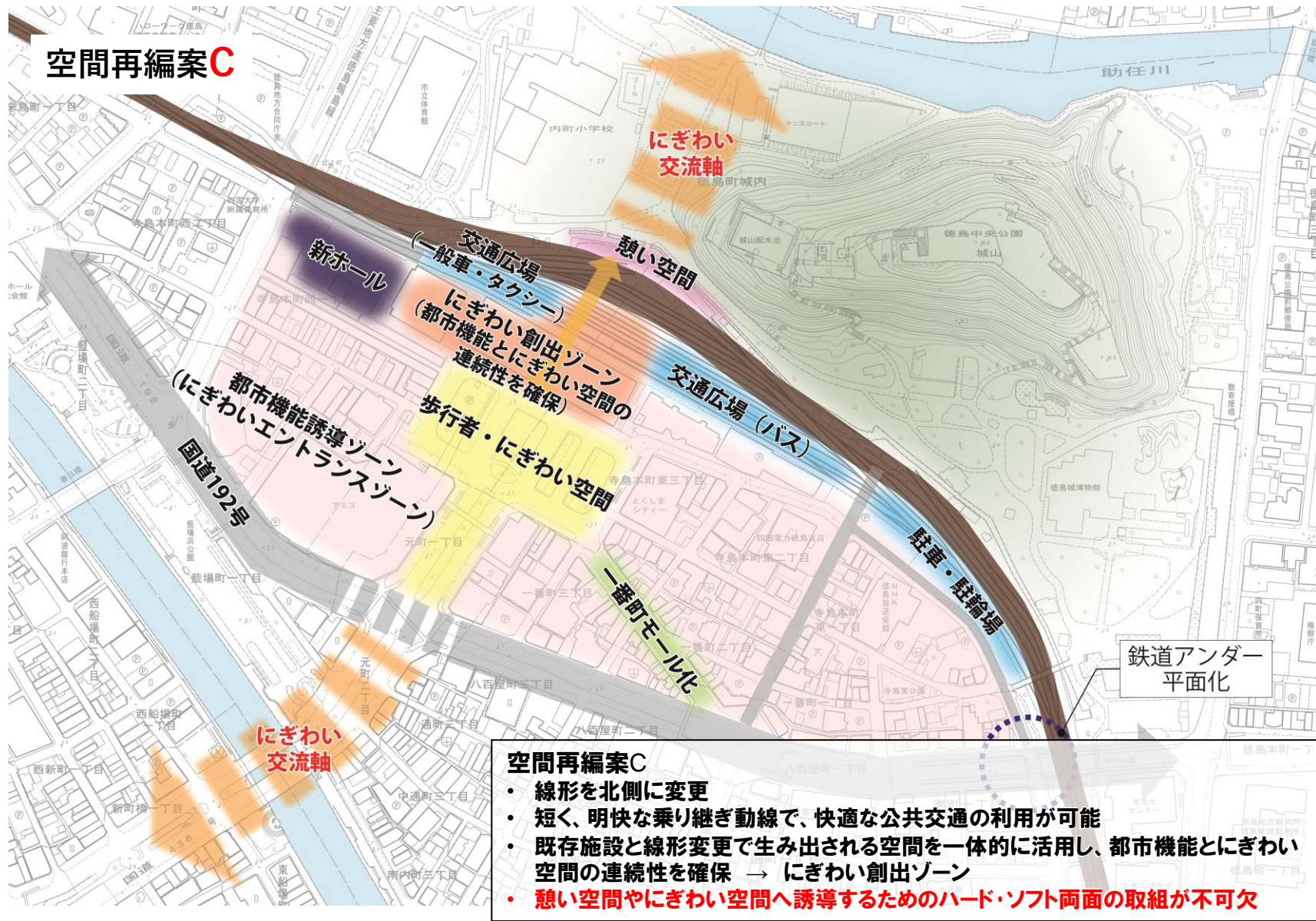
3. にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の方向

駅前広場関連空間の整備の方向



3. にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の方向

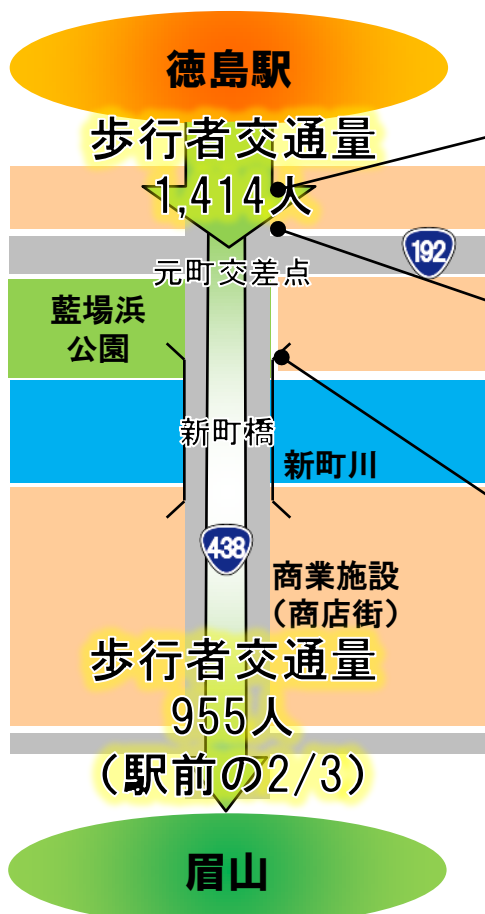
駅前広場関連空間の整備の方向



3. にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の方向

国道438号の現状

- 都市軸を形成する重要な構成要素である国道438号は、歩行空間は十分確保されているにもかかわらず、徳島駅を中心としたにぎわいや交流を誘引できていない
- 元町交差点は、歩行者が横断しにくい立体横断であり、沿道商業機能と分断されている



横断施設の下を經由するために暗い空間もあり、沿道の商業機能と一体となつたにぎわいが、形成されていない



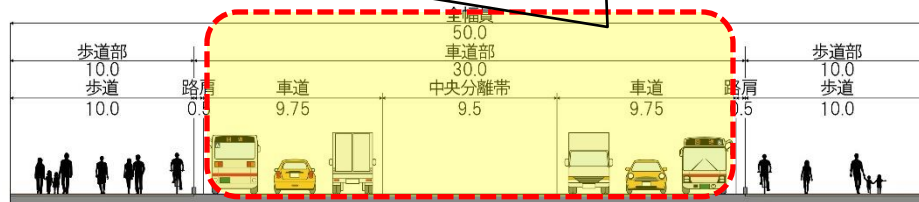
渡るために時間がかかる横断歩道橋など、歩行者にとって快適な空間となっていない



歩道空間は確保されているものの、歩行者交通量が少なく、閑散とした雰囲気がある

この空間を再配分し、歩く魅力を最大限に味わえる仕掛けづくりにより、新たなにぎわいの創出を図る

国道438号
計画幅員50m
断面構成



出典: 歩行者交通量: H28徳島市中心商店街通行量調査結果

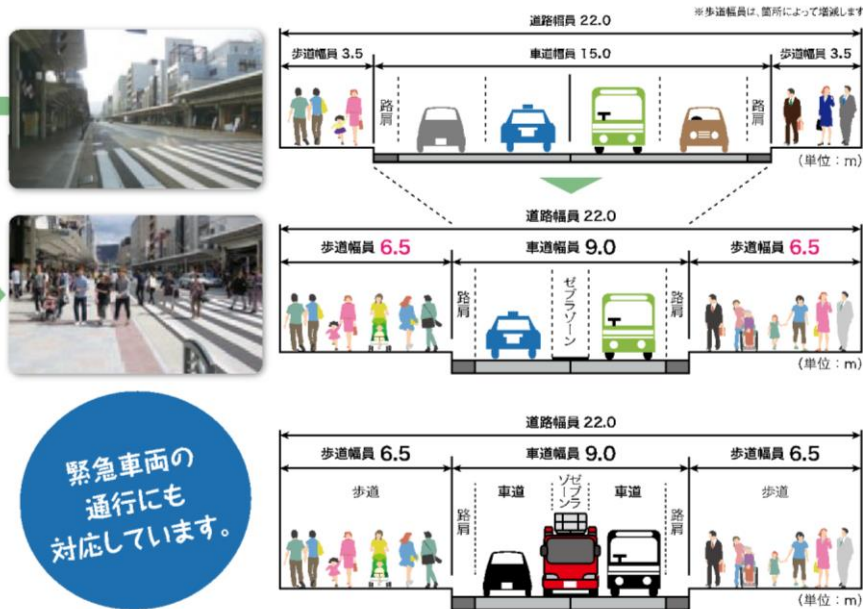
3. にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の方向

国道438号道路空間の整備の方向性 <参考事例>

- 自動車向けの道路空間を歩行者や自転車空間にリノベーションして、都市のにぎわいづくりに向けた仕掛けを行っている事例もある

◆京都市：四条通歩道拡幅の事例

「歩くまち京都」の実現に向けて、延長1,120mの4車線の市道を2車線に整備し、誰もが安心して、快適に歩ける歩道空間を確保



整備後の四条通では、両側の車線にクルマがあっても緊急車両が通行できる幅員を確保しています。

出典：四条通歩道拡幅事業完成記念誌(H27.11)

◆神戸市：道路空間活用の事例

出典：神戸市HP



停車帯を活用してパークレット(仮設ユニット)を設置した、道路における憩いやにぎわい創出の新たな取組としての社会実験

◆大阪市：御堂筋道路空間再編の事例

大阪のシンボルロードである御堂筋の一部区間について、平成28年3月よりモデル整備として、側道を閉鎖し、自転車通行空間を分離して、歩行者の安全性向上を図った。



整備前



整備後

出典：大阪市HP

4. 公共交通の利用促進策

4. 公共交通の利用促進策

公共交通に関する取組について

- 徳島市における公共交通に関する取組は、徳島市地域公共交通総合連携計画に基づき利便性向上やPR、情報提供など、継続的に実行中
- 駅周辺における公共交通利用促進策については、立地適正化計画等のまちづくり計画を踏まえ、市域公共交通のマスタープランとなる(仮称)徳島市地域公共交通網形成計画の中で検討

徳島市地域公共交通総合連携計画

計画期間 平成22～31年度 平成26年9月に見直し

基本方針

目標

取組み

利用特性・ニーズを踏まえた
利便性向上

利用者特性を踏まえたバスの利便性向上

利便性向上によるバス利用者の増加

PR・情報提供による市民の意識づくり

バス利用のPR・明快な運行情報の発信など

運営方法、ルート等の見直しによる経費削減

運行主体やルート変更等による運行経費改善

持続可能で均衡のとれた
公共交通ネットワークへの再編

地域特性に応じた運行形態の導入

運行形態の柔軟な見直しによる運行経費改善

公共交通不便地域の減少

地域住民によるバス運行へのサポートなど

立地適正化計画 策定中

～土地利用等のまちづくりの基本計画～

(仮称) 徳島市地域公共交通網形成計画 策定予定

～コンパクト&ネットワークの実現に向け、まちづくりと一体となった公共交通マスタープラン～

4. 公共交通の利用促進策

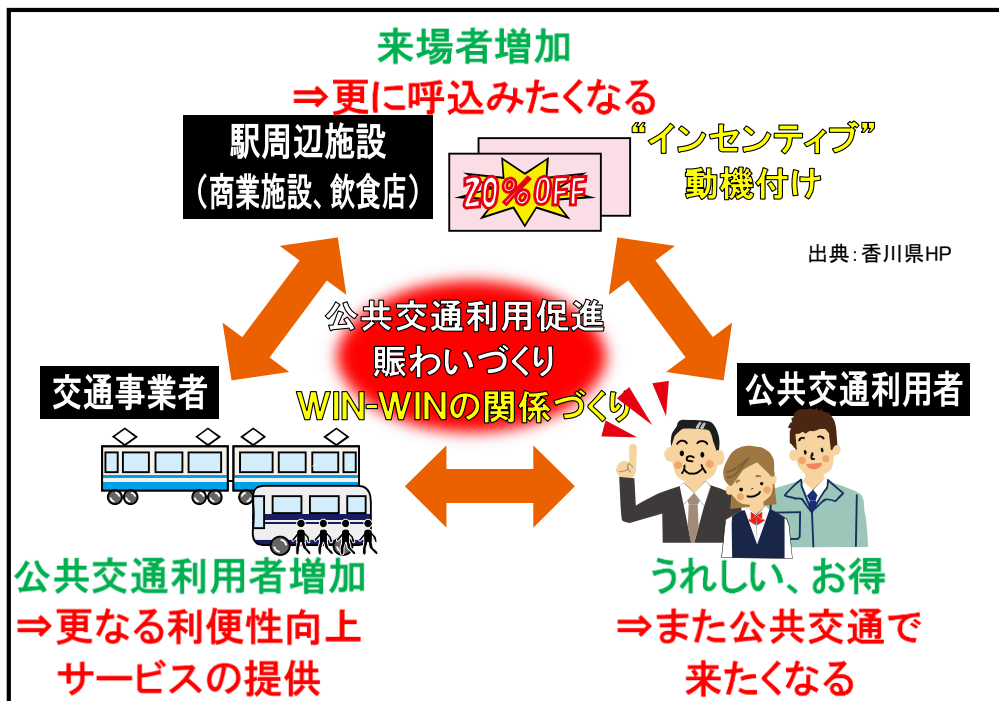
公共交通に関する取組について

- 駅周辺施設と連携し、動機付けを行うなどにより、駅周辺のにぎわいづくりと合わせ、公共交通の利用促進につながると考えられる

駅周辺施設との連携(買い物客へのバス割引券等) 徳島市地域公共交通総合連携計画

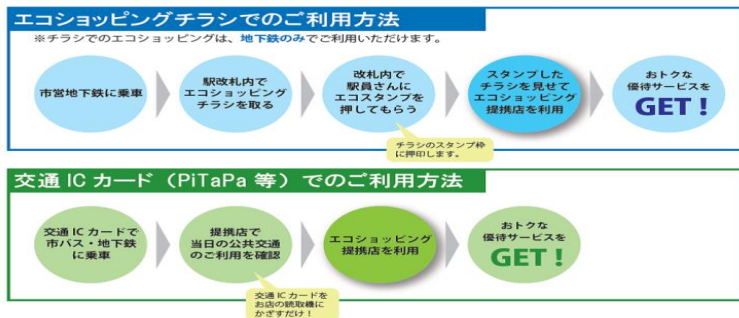
概要	買い物客へのバス割引券などの提供、駅と中心市街地を結ぶ循環バスの導入など、市中心部の商店街や店舗等との連携により、市民にバスの存在・利用をPRする
検討主体	徳島市、バス事業者、小売業者
スケジュール	短期・中期(概ね5年)で検討、実施

取組施策案: WIN-WIN関係による公共交通利用促進の動機付け(案)



関連事例

- ・神戸市エコショッピング(平成16年～)
エコショッピングとは、外出時のマイカー利用を公共交通利用へと転換し、環境負荷の軽減を図る仕組みで、地下鉄等に乗って対象店舗・対象施設を訪れ、利用者は、特別な優待サービスが受けられる。



出典: 神戸市交通局 トロこうべ

4. 公共交通の利用促進策

公共交通に関する取組について

- 徳島駅が県内最大の広域交通結節点であることを踏まえ、駅端末交通の強化としては、鉄道高架に合わせた駐車場・駐輪場の導入、わかりやすい駅交通施設の配置と利用案内の導入を検討

時刻表・バス路線図の統一化

徳島市地域公共交通総合連携計画

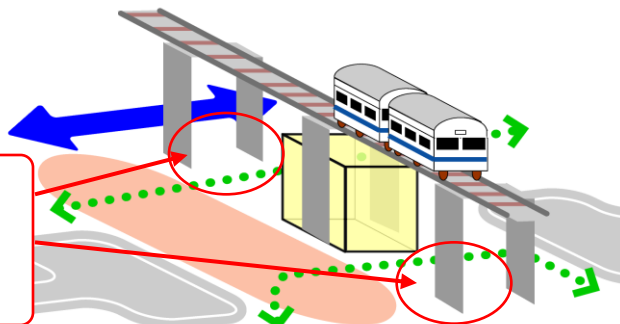
概要	徳島駅前のバスターミナル等において、事業者間の時刻表、バス路線図及び案内表示板等、情報の表示方法の統一化を進め、利用者へのわかりやすい情報提供に努める。
検討主体	徳島市、バス事業者
スケジュール	短期・中期(概ね5年)で検討、長期計画で実施

拠点形成する徳島駅端末交通手段の強化

鉄道高架下へのパーク&ライド型駐車場・駐輪場導入の検討

鉄道の利用促進を図るため、徳島駅発着路線の利用者のための駐車場や駐輪場を整備して、料金の無料又は割引サービスを実施

パーク&ライド型
駐車場や駐輪場の
高架下への導入を
検討



わかりやすい公共交通施設の配置と利用案内の検討

▼ 乗り場-系統-行き先の関連性がわかりにくい



▼ 同じ乗り場に、リムジンバスと路線バスが混在



4. 公共交通の利用促進策

公共交通に関する取組について

- 徳島駅は県内最大の広域交通結節点であることを踏まえ、公共交通間の乗り継ぎ利便性を高める取組みが重要であり、その1つとしてICカードの導入が考えられる
- ただし、導入にあたっては事業者負担が大きいいため、慎重かつ十分な国・県・沿線自治体及び関係機関との協議・検討が必要

乗継割引等、鉄道・高速バスへの乗り継ぎ抵抗の減少 徳島市地域公共交通総合連携計画

概要	バス事業者間、バス・鉄道間、バス・高速バス間、バス・フェリー間等、複数の公共交通手段間の乗り継ぎ利便性を高めるため、割引制度の導入やダイヤ調整等の検討を行う。
検討主体	徳島市、バス事業者、JR、フェリー事業者
スケジュール	短期・中期(概ね5年)で検討、長期計画で実施

ICカード導入による公共交通間(鉄道-バス等)の乗り継ぎ割引サービスの展開(案)

ICカード導入

乗り継ぎ割引

- ・ICカードは、運行経路が把握しやすいため、乗り継ぎ割引サービスが展開しやすい
- ・特に、駐車場料金の面から鉄道-路線バス、高速バス-路線バスの乗り継ぎサービス強化を図ることで、公共交通による駅周辺への来訪を促進

属性割引(高齢者割引等)

- ・平成29年1月から実施の「運転免許自主返納高齢者への路線バス運賃割引制度」をさらに後押し

その他 中心市街地の店舗等との連携展開へ

- ・中心市街地の店舗等との連携(買い物客へのバス運賃の割引)との併用施策としての展開も考えられる

関連事例

- ・高松市:ICカード「イルカ」により、平成26年から実施

- 【乗り継ぎ運賃割引拡大】
(電車⇄バス)相互の乗り継ぎ運賃割引の拡大(20円→100円)
拡大分の運賃差額を負担

- 【高齢者に対する公共交通利用支援】

- 70歳以上の市民を対象に、イルカが使える電車、路線バス、コミュニティバス等の運賃を半額とし、運賃差額を負担

- 【乗り継ぎ改善等の効果】

- 電車・バスの乗継件数が実施前と比較して、3割程度アップ

